スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県高萩市

自 治 体 名 ： 茨城県高萩市
担 当 課 名 ： 教育委員会生涯学習課
電 話 番 号 ： 0293-23-1132

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	193.55㎢
人口	25,815人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	557人
部活動数	26部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、高萩市の運動部活動は、8競技26部が活動している。

中学校３校は、少子化に伴い生徒数の減少が進んでいるため、学校部活動においては、従来どおりの運営や学校単位でのチーム編成・大会出場が困難になってきている。

そこで、高萩市では、これまでの学校部活動の概念から脱却し、休日部活動の地域移行、拠点校方式、新たな競技に挑戦するための環境整備など、高萩市の実態に合ったスタイルを模索してきた。

令和8年度における休日部活動の完全移行に向けて、高萩市独自スタイルをより良いものにしていきたいと考えている。

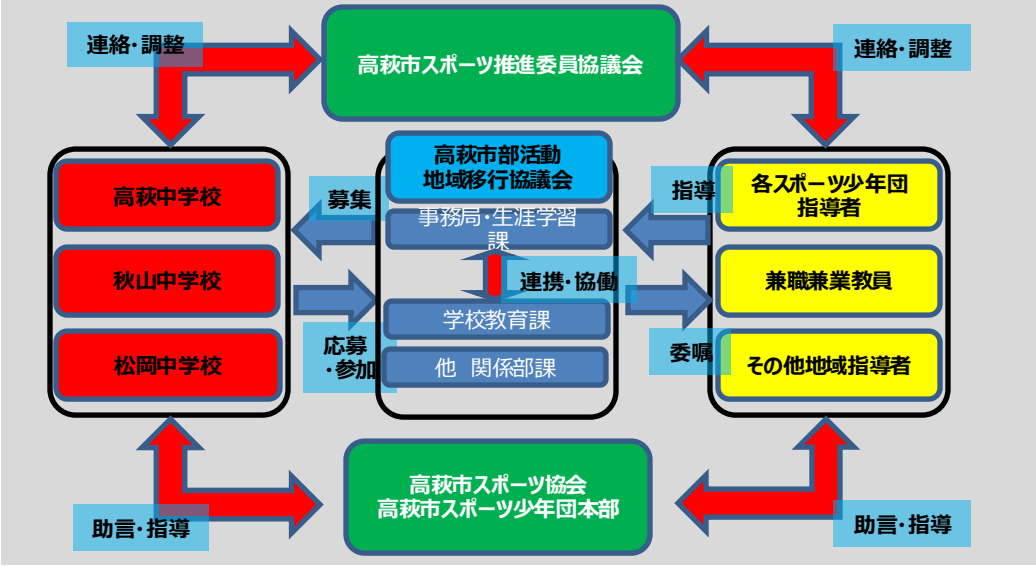
今後、学校管理下を離れ、地域クラブとして活動していくことが必要であるため、学校教職員以外の地域内の指導者、及びクラブ体制を整えていかなければならない。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・生涯学習課（スポーツ推進G）：部活動改革の主管課、学校との連絡調整
　運動部活動の環境整備
・生涯学習課（生涯学習G）：文化部活動の環境整備
・学校教育課（学校教育G）：学校に関する事項

◉首長部局

・企画財政課：予算措置

年間の事業スケジュール

令和６年４月	地域移行チラシ配布 市内全中学校へ１１競技【サッカー/剣道/ソフトテニス/バレーボール/柔道/野球/卓球/バスケットボール/空手/硬式テニス/ウエイトリフティング】
令和６年５月	運動部専門委員会の開催
令和６年11月	協議会の開催
令和７年12月	運動部専門委員会の開催
令和７年３月	協議会の開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	３校	実施した地域クラブ総数	9クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		8クラブ（部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	30人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
高萩BBC	市町村	軟式野球	週1回	土日祝日のうち3時間		通年	市内中学校グラウンド、高萩市民球場	3人	3人	なし	中体連：部活動（拠点校）
たかはぎバスケットボールスクール	市町村	バスケットボール	週1回	土日祝日のうち3時間		通年	市内中学校グラウンド	8人	8人	年会費1,500円	中体連：部活動
高萩FC	市町村	サッカー	週1回	土日祝日のうち3時間		通年	市内中学校グラウンド	3人	3人	なし	中体連：部活動（拠点校）

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●高萩BBC（野球）は、12月に市内の野球少年団と合同練習を実施し、連携を図った

2.実証内容と成果

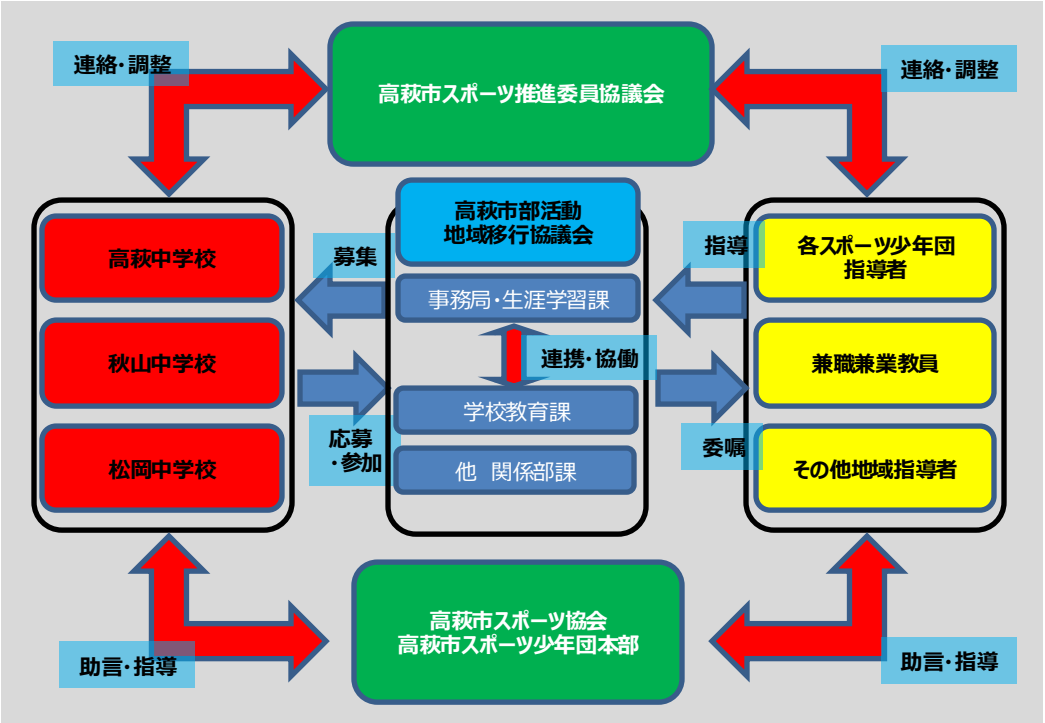
スポーツ庁

主な取組例

●地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球
運営団体名	高萩BBC、高萩FC
期間と日数	サッカー：総体後から（週1回程度） 野球：通年（週1回程度）
指導者の主な属性	教職員
活動場所	市内中学校グラウンド
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎等
１人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：なし 野球：なし
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

※明確な役割分担は決まっていない

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・野球は、シーズンオフに少年団との合同練習を行い、少年団との交流を図った。
・サッカーは、新人戦以降、少年団との連携協力体制の構築に向け交流を開始した。
・柔道は、少年団が受け皿となり定着した。

取組の成果

高萩市では、試行的ではあるが令和５年度から4競技、令和６年度から4競技、合計8競技すべての学校部活動（運動部）が手探りながら取組み出した。主に合同練習となっている。

また、 目標とする大会は中体連（総体・新人戦）であるため、学校部活動の横スライド傾向が根強いことから、教員が離れることは現実的ではなく、教員頼みという一面を持ち合わせている。

一方で、令和５年度から実施していたバスケットボールについては、スクール形式での練習の場としていることから、大会参加もないため陰りが出てきた。

なお、柔道については、既に少年団が受け皿となり、クラブとして大会参加している。

コーディネーターの具体的な動きの実績

・コーディネーター不在

今後の課題と対応方針

・指導員のスケジュール調整

少年団指導員がクラブ指導員を兼ねることとなれば、事前に計画的な指導員配置を行い、継続的に指導できるような申し送り事項の共有が課題だと思料する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

現状、中体連大会へ参加することは学校単位が基本となっていることから、指導者は教員に頼っているのが実情である。

今後、中学生に適切な指導を行うためには、様々な知識やスキルが必要である。各競技ごとにクラブ活動の方向性と併せて、指導者の確保、及び指導者の資質向上のための研修を定期的に実施する必要がある。

この度、茨城県教育委員会主催の「令和６年度　地域クラブ指導者養成研修会」が実施されることから、地域クラブ指導者へ積極的な受講に向けた案内を行った。

本市独自の人材バンク等は設けてなく、現時点においては各競技の部活動顧問や地域クラブ指導者に頼っているため資格の有無については把握できていない。

取組の成果

令和６年度においては、柔道とバスケットボールで教員以外の指導者がいたが、必要性を感じながらも、教員が携わっていたこともあり、本市独自で地域クラブ指導者養成研修会等は未実施であった。

「令和６年度　地域クラブ指導者養成研修会」の内容として、指導者の役割、安全・効果的なトレーニング指導の基礎知識、スポーツ指導者に必要な医学的知識、ジュニア期におけるマルチスポーツの重要性、スポーツと法、コンプライアンスの徹底などが盛り込まれているため、繰り返し受講することにより、指導者の質の保証を保っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

➤市独自での地域クラブ指導員の指導者研修は未実施

➤「令和６年度　地域クラブ指導者養成研修会」
（県教育委員会主催）
・指導者の役割～グッドコーチとは？
・安全・効果的なトレーニング指導の基礎知識
・スポーツ指導者に必要な医学的知識
・ジュニア期におけるマルチスポーツの重要性
・スポーツと法
・コンプライアンスの徹底

受講者の声

➤受講した地域クラブ指導者の声
「専門競技の認定指導者講習会内容と重複する部分もあるが、自身の指導者としての知識をアップデートしたり再認識する良い機会となった。」

開催方法：オンライン（オンデマンド形式）
期間：令和７年３月４日から令和７年４月３０日

指導者研修の参加実績

開催方法：オンライン（オンデマンド形式）
期間：令和７年３月４日から令和７年４月３０日

今後の課題と対応方針

【　課　題　】 教員と地域指導員のバランス
【対応方針】 協議会事務局職員による調整

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

➤野球：少年団との交流会
➤バスケットボール：スクール形式
➤柔道：既に少年団が受け皿
➤卓球：地域クラブ
➤サッカー：少年団、サッカー協会との協議
➤バレーボール：市内中学校合同練習
➤ソフトテニス：市内中学校合同練習
➤剣道： 1校（高萩中の生徒のみ）

取組の成果

➤野球：中１ギャップの解消に寄与
➤バスケットボール：スクール形式の先細り
➤柔道：既に少年団が受け皿
➤卓球：地域クラブ員の技術向上
➤サッカー：計画的な指導員配置予定
➤バレーボール：受け皿模索
➤ソフトテニス：受け皿模索
➤剣道：1校（高萩中の生徒のみ）

今後の課題と対応方針

【 課 題 】
・中体連大会をベースに考えると、学校部活動からの横スライド傾向は根強いままであると思料する。
・大会等がないと目標がないため、先細り感がある。
【対応方針】
・団体競技については、拠点校方式における学校管理下を離れた体制の構築が必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

➤令和6年度は、内容充実に至らなかった。

中体連大会と平日部活動のゴールが示されない中で、進むことへの不安が強まってきた。

高校も同じような状況でスタートしたはずが、従来どおりの状況下にあり、先に進むことへの抵抗が強くなったことが要因。

活動の詳細

参加人数	391人	指導者数	30人
属性	団体競技においては拠点校方式		
具体的な内容	●合同練習		
子供の声	● 単独校では少人数でチームが組めず、試合も出来なくて楽しくなかったが、他校と一緒のチーム編成により、大会出場のみならず、県北地区を勝ち上がり、県大会へ出場することができてうれしかった。 ● 他校と一緒になることで、試合に出ることが少なくなってしまった。		
関係者の声	● これまでの部活動のように、時間的な縛りを緩和する形で一生懸命やらせてあげたい。 ● 勝利至上主義ではないが、勝つことの喜び、負けることの悔しさ、そこからの頑張りなど、頑張ることの意義が薄れてしまうのではと懸念する。 ● 平日の部活動ある限り、無理があるのではないか。		
運営経費	令和8年度から一律で徴収する予定 ※年会費：保険代、連絡ツール使用料 ※ 月 謝 ：指導者謝金		

今後の課題と対応方針

【 課　題 】・中体連大会と平日部活動のゴール地点
・高校における地域移行とのバランス

【対応方針】・中体連大会と平日部活動に注視
・高校の件は切り離すこと

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

高萩市内の学校部活動（運動部）においては、令和5年度は４競技のみの取組みだったが、今年度は試行段階も含めて、すべての競技（８競技）で取組み出した。

多くの中学生は学校部活動に所属し、平日は学校部活動として活動し、目標となる大会は、中体連大会（総体・新人戦）がベースとなる。

このようなことから、休日の活動においても教員頼りになっているのが実情である。

実証事業において、課題が見えた中において、推し進めることなく、国県の動向に注視し、それを踏まえたうえで検討する必要がある。

●成果の評価

学校部活動（運動部）のすべてが取組み出したことは成果。

しかし、学校部活動の横スライド感があることから、「これまで」と「これから」で困惑している。これまで、実証事業を実施（令和５年度、６年度）し、前に進んだと思っていた部分でも、新年度になると後戻りする面もあった。

ゴール地点が明確にならない状況下で走り、どこへ向かうのか、一旦立ち止まるべきでは等、不安視する声もあったが、小規模自治体のメリットを活かし、引き続き取り組むこととした。

●今後に向けて

実証事業を踏まえたうえで、令和８年度からの地域展開を目指すが、今後、休日及び平日のゴールが明確になるまでは、国県の動向に注視し、適宜見直しを伴うものと思料する。

また、受益者負担となる会費についても上記とセットで検討する。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●参加者の声

中学３年生（野球）
昨年、新チームになった時、単独チームでは大会参加ができなく、不安があった。しかし、「高萩BBC」として他校の仲間と一緒に練習するなかで、試合に出たいという気持ちがより強くなり、レギュラーの背番号を付けることができた。
新人戦、総体、いずれも県大会へ進むことができたことは、私にとって大きな自信がつき、高校野球へ挑戦しようと思った。

中学２年生（柔道）
小学生の時から教わった指導者の方から、中学生になっても引き続き指導を受けることができている。
私の戦術、特徴を基に試合でアドバイスをもらえていることは安心感がある。

中学２年生（サッカー）
今年、私たちの代になって迎える新人戦に向けて、「高萩FC」 として参加することになった。最初は他校の生徒と一緒で楽しく感じなかったが、練習、試合を重ねるたびに徐々に仲間意識がうまれた。新人戦で県大会へ出場できたことはうれしかった。頑張って総体ではレギュラーとして出たいと思う。

中学３年生（バスケットボール）
部活動がなくなる不安から、友人は他市のクラブへ通うなど、小学校から一緒の仲間がバラバラになってしまいました。
私は学校部活動を選び、休日の練習をスクールで他校の生徒とできたことはうれしかった。
できれば大会もこのスクールの仲間と出てみたかった。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

広報資料については、リーフレットを作成のうえ配布。
保護者等からの質問は特になかったが、他自治体の担当者からの問い合わせが若干あった。
アンケートについては令和６年度未実施。



【生徒への参加啓発チラシ】

高萩市休日部活動の地域移行がスタートしています！

基本的コンセプトは「休日における生徒の選択肢を増やす」

高萩市では、これまでの学校教育活動として行われてきた部活動の意義や良さを継承しつつ、子供たちが参加するスポーツ・文化活動を持続可能なものとすることを目指し、さらに様々な活動が可能となるべく制度改革を推進していきます。

～高萩市休日部活動地域移行ロードマップ～

種目		R5	R6	R7	R8
軟式野球		実施中			休日部活動の完全移行
バスケットボール		実施中			
柔道		実施中			
卓球		実施中			
サッカー			実施予定		
バレーボール			実施予定		
ソフトテニス			実施予定		
剣道			実施予定		
その他のスポーツ	ウエイトリフティング	実施中			
	硬式テニス		実施予定		
	空手		実施予定		
吹奏楽			実施予定		
その他の文化活動				検討中	

※ R6実施予定の競技は、中学校総合体育大会終了後、順次開始予定です。

いきなり学校の部活動がなくなるわけではありません。国及び茨城県の方針により、令和７年度末に休日に部活動に従事する教員をゼロにすることを目標とするための実証事業を現在実施しています。平日の部活動については、休日の部活動の移行完了後、その可否についてからさらなる検討が必要となります。また、平日の部活動と休日の地域活動は必ずしも同じである必要はありません。中学生年代には、様々なスポーツ種目を実施することで身体能力が向上し、様々な文化に触れ合うことで感性が豊かになり、人生を通じた生涯活動の向上に繋がります。

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【野　球】



【柔　道】



【バスケットボール】



【卓　球】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年 → 令和６年

協議会設置、検討開始 ▶ **受け皿団体や指導者の選定、拠点校の選定** ▶ **学校現場との調整** ▶ **生徒、保護者への説明** ▶ **地域クラブ活動の開始** ▶ **地域クラブ活動の拡大**

●ステークホルダー
受け皿団体

●経過
受け皿団体として見込んだ競技に実際、参加希望者がいない競技があった

●実施にあたって生じた課題
学校部活動にある競技を選択し、中体連大会へ参加することがベースにある

●実施内容、工夫した点 等
主に学校部活動競技を行いながら、マルチスポーツとしての視点

●ステークホルダー
学校現場

●経過
学校部活動がなくならない限り教員のかかわりが生じる

●実施にあたって生じた課題
大会参加要件

●実施内容、工夫した点 等
引き続き検討事項

●ステークホルダー
地域指導員（少年団）

●経過
これまでの部活動のように、時間制限等、縛りがない状況下で目いっぱい活動させてあげたい

●実施にあたって生じた課題
中学生なのに少年団の活動より短い活動時間

●実施内容、工夫した点 等
現状、枠内での活動になるが、国県等の動向を注視